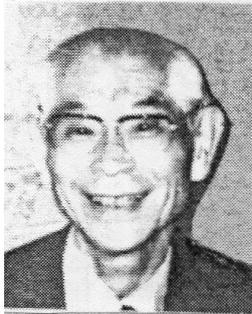


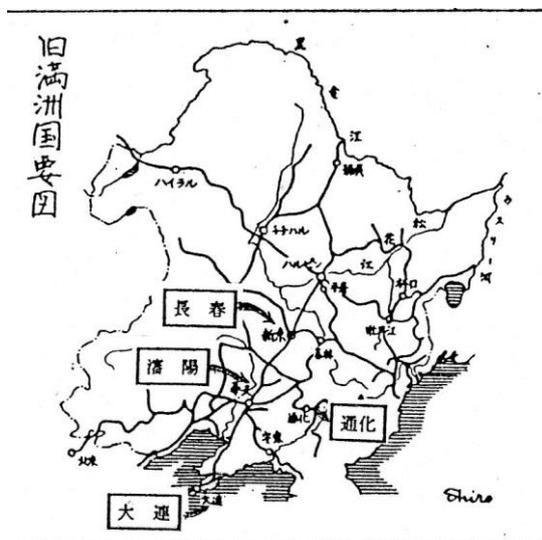
中国旅行記・

新通化下車の証を得る



山下 二男
60期6-9
(所沢市)

新京通化会編「望めば遥か漂渺の」の中
の渡満日誌・思い出記等に出ている通り、
20、8、15 我々が通化飛行場に向かった経
路を、東通化駅経由とするものと新通化駅
経由とするものの二通りの記述があり、果
たして何れが正確なのか、それを確認する
ことも今回の旅行の最大の目的の一つであ
った。



[参考] 渡満日誌抜粋

◎8月15日 水 晴

通化駅到着 13時20分、19時迄停車。
新通化駅到着 21時半、飛行場到着 23時。

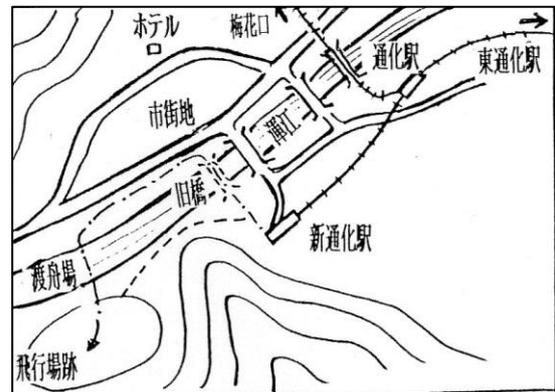
… 24-⑨ 航空 11-④ 田中政行

◎13 時近く通化駅に入り下車。駅前の広
場にて17時まで待機す。……17時通化を
出発、19時頃東通化駅にて下車……

8-⑩ 航空 17-④ 大内市夫

◎1300 頃通化着。駅にて第59期生の一
部と合流し、飛行場なる新通化に向かう…

6-⑨ 航空 16-③ 山下二男



通化市街図

我々、長春通化会の一行 9月11日(四
日目) 0900 旅行社差し回しのバスに乗
車、ホテルを出発し、先ず新通化駅に向か
う。地図の通り駅は街外れにあり、バスの
運転手の言によれば、現在は貨物駅で、建
物も当時のままとの事であった。筆者は全
く記憶がないが、同行の 17-②大山達夫、
建物全体からこの駅だったような気がする
と洩らす。駅をバックに記念写真を撮り、
次いで飛行場跡に向かう。

図で分かるように川(渾江)沿いに江南
地区へ進行途中、渡船場が右手に見えて来、
しかもワイヤーを対岸に渡し掛け漕舟して

いるではないか。これは当時の記憶にあり、少しずつ昔が思い出されるような気がしてきた。しかしながら、飛行場と川を渡った方向とが逆のため半信半疑のまま行過ぎる。

現場（現在は通化市園芸研究所の門前）に到着したものの、すぐには飛行場が何処で、どんなだったか、さっぱり分からなかったが、折よく同上研究所から老人が出てきたので、呼び止め次々に質問したところ、大略次のことが分かった。



旧飛行場跡の園芸研究所の前で集合写真

☞ は証人の農夫

- 老人の名は「丁立東」で年齢は 60 歳
- 同人が 10 歳から 17 歳になるまで、ここに日本軍の飛行場があった。（換算すると昭和 17~24 年頃と思われる。）
- 当時ここに来るには、我々がバスで来た道路はなく、対岸（右岸）の道路を通り、この川を渡らなければならなかった。また、この川幅も狭く、水量も少なかった。
- 新通化駅から対岸に渡る橋があったが、その橋は一年前に取り壊された。

以上の話しを聞き、皆は漸く納得し拍手喝采となった次第である。但し、新通化駅から対岸に渡る橋を通った記憶がないと頭を捻る者もあったが、なにしろ夜間のこと

でもあり、疲労と一刻も早く飛行場に行きたいとの気持で周囲の様子は印象になかったのではなかろうか。

ともあれ、遠くに見られる山容も 47 年前の姿と変わらず、上述の話で俄かに昔を思い出し、天幕露營した付近？まで散策した。1030 過ぎ思いを残し、次なる葡萄酒工場に向かった。（10月12日）